

学生が三茶祭(学園祭)の様子をレポート!



第8回三茶祭は「わちゃろう! 輪を広げる三茶祭」をテーマに開催しました。
 コロナ禍からの自粛明けで迎えた2度目の対面開催となった昨年度は、「三茶de大道芸」との同時開催を実現。
 地域とのつながりをさらに深めるとともに、企画や模擬店など、すべての面でパワーアップした三茶祭となりました。
 その結果、過去最高の来場者数を記録し、大盛況のうちに幕を閉じました。
 今年度の第9回三茶祭でも、皆さまのご来場をお待ちしております!

※三茶祭実行委員がデザインを作成しました。

OPEN CAMPUS 2025 オープンキャンパス・進学相談会日程

第1回 7/20日 オープンキャンパス 進学相談会	第2回 8/24日 オープンキャンパス 進学相談会	第3回 10/19日 進学相談会 (三茶祭内企画)	第4回 2026年3月予定 進学相談会
--	--	--	---

オープンキャンパス・進学相談会についてのお問い合わせは TEL:03-6453-1700 / 日程の変更、予約制となる場合があります。

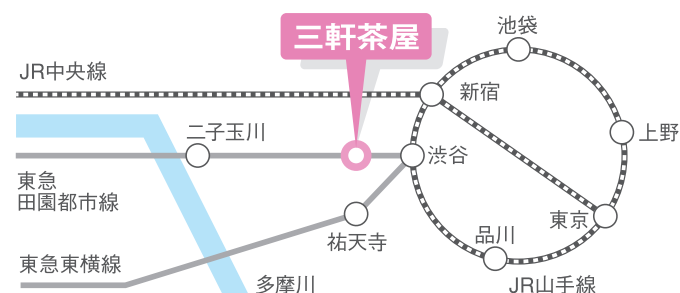


オープンキャンパス・
進学相談会の情報は
こちらをご覧ください。

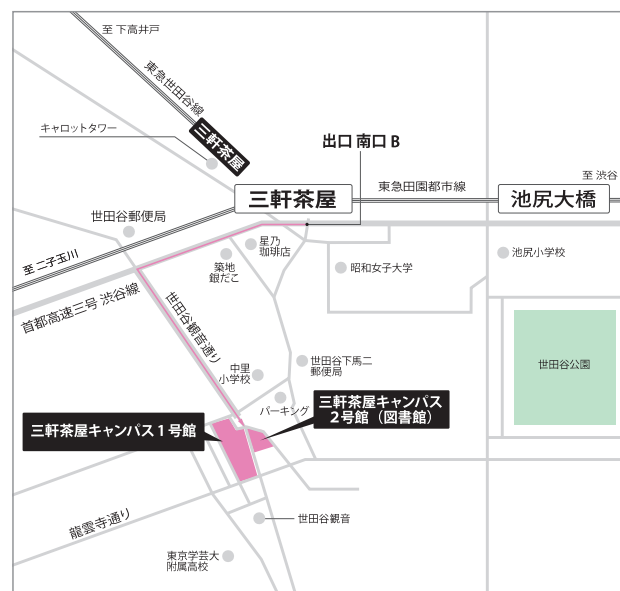
ACCESS アクセス

三軒茶屋キャンパスから新しい学びを発信

東急田園都市線の渋谷駅から急行で一駅、三軒茶屋駅から徒歩約10分。
 都心型のキャンパスから、日本の未来に貢献する学びを発信していきます。



- 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩10分
- 東急東横線「祐天寺」駅から、
東急バスで三軒茶屋駅行(約10分)「日大前」下車徒歩1分



CONTACT お問い合わせ先

日本大学三軒茶屋キャンパス

〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34-1

TEL:03-6453-1600 e-mail:adm.rmss@nihon-u.ac.jp

<https://www.crm.nihon-u.ac.jp/>



危機管理学部
ホームページ



危機管理学部
X



三軒茶屋キャンパス
Instagram



危機管理学部
YouTube

危機管理学部

College of Risk Management
NIHON UNIVERSITY

2026

未来の「安心」を創る。



日本大学
NIHON UNIVERSITY

未来の「安心」を創る。

危機管理学部では、さまざまな人や社会とのつながりを通し、
ともに安心な未来を創っていくことを学びます。



危機管理の学びを広げる
専門科目の4つの領域



災害マネジメント 領域

災害マネジメント領域は、災害の歴史や法制度について学ぶ分野です。被災地や災害リスクを抱えた土地を実際に歩く機会もあり、自分の目で災害の惨禍を見つめることで、防災意識が高まります。私たちが生きるこの時代には、どんな災害リスクがあるのか、一緒に考えてみませんか？

4年生 新田 千尋さん



グローバルセキュリティ 領域

グローバルセキュリティ領域の魅力は安全保障や環境問題など、学べる分野が多岐にわたっていることです。例えば、国家間紛争についての課題に目を向けると、その背景に歴史や宗教、地形などが関わっていることが分かります。その事象に対して多面的に向き合うことで、学びの幅が広がっていきます。

4年生 守次 葵さん



パブリックセキュリティ 領域

パブリックセキュリティ領域では、国内で発生するさまざまなリスクについて学ぶことができます。司法や行政の基礎から、社会安全政策や国民保護などの踏み込んだ内容まで知見を広げられます。特に公務員や安全なまちづくりに携わりたい方にはおすすめの領域です。

4年生 高橋 裕太郎さん



情報セキュリティ 領域

情報セキュリティ領域では、情報に関するさまざまな事象を多角的に学べます。近年、インターネットなどのサイバースペースの重要性が高まり、情報セキュリティについて考える機会も増えています。今こそ、情報セキュリティを学ぶ絶好のタイミングです！

4年生 木下 航希さん

College of Risk Management

NIHON UNIVERSITY

学びのステップ

リベラルアーツと専門、理論と実践で織りなす危機管理の学び。
リスクリテラシー（危機管理能力）の獲得を目指して。

※令和8年度新カリキュラム施行予定



1 年次 リベラルアーツで「探究学修」がスタート

『リベラルアーツ科目』、とくに人文・社会・自然科学の分野を扱う『探究科目』では、「知りたい」という気持ちに根ざしたアクティブな知識を身につけながら、自己を見つめ直し、社会や環境との関係を客観的に捉える力を養います。また、『コミュニケーション科目』では、語学などを通じて世界とつながるスキルを磨きます。一方、『専門科目』では、危機管理の基礎的な概念について体系的に学修します。



2 年次 リベラルアーツの深化と専門学修の本格化

『探究科目』では、社会課題を複眼的に捉え、分野を超えた解決策を模索する「学際研究」が加わります。一方、専門科目では、『基盤科目』において国家、企業、市民社会を支える制度やシステムの理論を学ぶほか、『展開科目』では、インテリジェンス、セキュリティ、ロジスティクスといった危機管理の基本機能について分析します。



3 年次 専門の高度化と参加・実践型授業の展開

引き続き、『基盤科目』では、法制度をはじめとする社会システムについて学ぶほか、『展開科目』では、防災や安全保障など、具体的な危機事象に即して、危機管理のあり方を理論的に深く追究していきます。『統合科目』は1年次から始まり、実践的な経験を積む各種プロジェクトに加えて、職業観を育てるキャリアデザイン科目も含んで、4年次までステージを上げながら進みます。



4 年次 ゼミナールを通じて専門性と実践力を獲得

『統合科目』のハイライトは、研究室に所属し、危機管理及びそれを支える社会システムについての知識を、リスクリテラシー（危機管理能力）にまで高めるゼミナールといえます。将来のキャリアが見通せるこの時期には、『リベラルアーツ科目』に立ち返り、改めてコミュニケーションを磨き、知の探索を行うことが推奨されます。



取得できる学位：学士（危機管理学）

教育研究上の目的と3つのポリシー

危機管理学部は、ヒューマニズムに根ざした思考様式を備え、社会的危機に柔軟かつ的確に対応できるリスクリテラシーの獲得を、教育と研究の目的としています。その具体的な方針は、「3つのポリシー」に明確に示されています。

1 ディプロマ・ポリシー
Diploma Policy

2 カリキュラム・ポリシー
Curriculum Policy

3 アドミッション・ポリシー
Admission Policy

卒業の認定に関する方針

教育課程の編成及び実施に関する方針

入学者の受入れに関する方針



▲ポリシーの詳細はこちらをご覧ください

学部長からのメッセージ

Message



学部長・教授 福田 充
FUKUDA Mitsuru

Profile●1969年、兵庫県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（政治学）。専門は危機管理学、リスクコミュニケーションなど。1995年の阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件を経験し、危機管理学の研究を始める。コロンビア大学 戦争と平和研究所客員研究員や内閣官房等の危機管理・国民保護に関する委員を歴任。

能登半島地震が発生して1年以上の月日が流れましたが、まだまだ能登半島の被災地の復興ははじまったばかりです。戦後最大規模の都市型震災であった1995年の阪神淡路大震災の発生から、今年で30年の節目の年ですが、こうした過去の大規模自然災害の経験を私たちは次の災害の教訓とせねばなりません。たくさんの死傷者の発生が予測されている首都直下地震も、南海トラフ巨大地震もいつ日本を襲ってもおかしくありません。

世界に目を転じて、ロシアによるウクライナへの全面的軍事侵攻は4年目をむかえ、イスラエル軍によるパレスチナのガザ地区や周辺国への攻撃は続き、停戦状態が安定しないまま多くの一般市民の命が失われています。

戦争のない平和な世界を実現すること、自然災害に強い安心な社会をつくること、新型インフルエンザのような感染症のパンデミックに対応できる社会制度を構築すること、このように社会を襲う多様な危機に対して、事前準備のリスクマネジメントから、事後対応のクライシスマネジメントまで幅広く学ぶのが、従来の「オールハザード・アプローチ」

による危機管理学です。

戦争や自然災害、パンデミックにおいて人々の命を守るだけでなく、人々の人権や自由、幸せな生活を守るためには、その基盤となる「ヒューマニズム（人道主義）」や「ダイバーシティ（多様性）」といった倫理や規範というものが不可欠であり、それらの価値を守るためには「コンプライアンス」や「ガバナンス」を平常時から社会の中で確立していかなければなりません。これらの価値をめぐるトラブルは、テレビ局や芸能界でも、自治体の行政においても、一般企業においても、繰り返し起きています。こうした取り組みを、私たちは「新しい危機管理学」と位置づけて、この危機管理学部で研究し、教育していきます。これはグローバルな取り組みの中で世界的に共有されるアプローチですが、日本ではじめての挑戦です。

こうした危機管理学のリベラル・アプローチを、一緒に研究し、学びましょう。この「新しい危機管理学」をともに学ぶ仲間を、皆さんをキャンパスで待っています。皆さんの若い感性に期待しています。

Column

学祖・山田顕義の理念を受け継ぐ危機管理学部

日本大学の前身・日本法律学校を創立した学祖・山田顕義は、1844（弘化元）年に現在の山口県萩市に生まれ、14歳で吉田松陰の松下村塾に入門。後に岩倉使節団の一員となり欧米諸国の先進的な文化を視察し、軍備拡充よりも法律整備や教育の普及が急務であることを確信。日本を法治国家とすべく近代法の制度設計に邁進し、司法大臣として、明治法典を編纂。我が国「近代法の父」と呼ばれています。学祖は、欧米諸国の法律を学ぶことが主流だった当時の法学教育に疑問を抱き、1889（明治22）年に日本法律学校を創立。明治維新後の日本が近代化の過程で直面した安全保障や危機管理のあり方を法学的な観点から模索し、国際社会で通用する国家建設に尽力しました。危機管理学は新しい学問領域ですが、日本大学の起源とも関わる非常に重要な研究分野です。



学祖・山田顕義



災害マネジメント領域



災害を未然に防ぎ的確に対処する 災害マネジメント力向上を目指して

災害マネジメント領域は、地震や津波、台風などの自然災害、あるいは原発事故など広く災害と呼ばれる現象を扱う領域です。特に焦点を当てるのは、災害と関連する法制度、災害に取り組む政府や地方自治体、企業などの各種主体、地域コミュニティ、個人々の心理や情報といった社会的諸要素です。この領域では、法学や政治学、社会学、工学、心理学などの学際的な観点から、災害と向き合う私たちの社会のあり方、向き合い方に対する理解を深め、社会において具体的対策を考えるための力を養います。



ゼミの中で「災害を体感する」をテーマに、地震体感マットやAR/VRアプリを体験してもらいました。令和7年度から1年次必修科目に取り入れる予定です。

主な科目

災害対策論
事業継続論(BCP・BCM)
災害情報論

自然災害論
地域防災論
災害マネジメント特殊研究1【災害と法】

災害マネジメント特殊研究2【ヒューマンエラー】
災害マネジメント特殊研究3【大規模事故論】
災害マネジメント特殊研究4【パンデミック】

授業科目をもっと見る▶



※特殊研究の【】内は年度によって変更となる場合があります。

Message

在学生インタビュー

災害マネジメント領域 4年生
新田 千尋 さん

「人を救いたい」
その気持ちが学びの原動力



高校生の時に青少年赤十字に加入して、救命講習や炊き出しなどを体験したことがきっかけとなり、災害マネジメントを専門的に学べる危機管理学部への進学を決めました。「危機管理実践研究1」の授業では、福島第一原子力発電所や廃炉資料館など、実際に被災地を訪問し、災害のリスクや恐ろしさを自分の目で確かめることができました。将来は災害の知識や実習経験を活かし、災害救護を実施する団体への入職を目標にしています。

教員インタビュー

教授
秦 康範

守られる人から守る人へ
災害リスクを軽減し社会を守る



災害のリスクを軽減し、持続可能な社会システムについて研究をしています。地球規模の気候変動により豪雨災害の被害が大きくなり頻発化し、さらに大地震もいつ起きてもおかしくない状況です。少子高齢化や人口減少が進む中で、災害への備えは今まで以上に重要になっています。「地域が大きな水害や地震に襲われたらどうなるか?」、普段見慣れている景色も、災害という視点で見ると違う姿が見えてきます。知ることによって世界が変わる。学ぶことで未来を守る。「学ぶことの大切さ」を実感してもらいたいです。



パブリックセキュリティ領域



犯罪や事故による被害が最小化された より安全で安心な社会の構築を目指して

パブリックセキュリティ領域では、虐待・DV、ストーカー、保育・学校事故などの身近な事件・事故から暴力団や匿名・流動型犯罪グループによる組織犯罪、さらにはテロに至るまで、個人や社会の安全に関連するさまざまな課題を扱います。これらへの対応は、公安系職種や一般行政職のみならず、現代社会に暮らす誰もが避けて通ることのできない課題です。



「危機管理実践研究」では世田谷区が舞台の図上訓練を区役所職員役として学生が体験しました。

主な科目

社会安全政策1・2
国民保護
テロリズム論

こどもインクルージョン(行政マネジメント)
パブリックセキュリティ特殊研究1【経済刑法】
パブリックセキュリティ特殊研究2【犯罪心理学】

パブリックセキュリティ特殊研究3【インフラセキュリティ】
パブリックセキュリティ特殊研究4【観光リスクマネジメント】

授業科目をもっと見る▶



※特殊研究の【】内は年度によって変更となる場合があります。

Message

在学生インタビュー

パブリックセキュリティ領域 4年生
高橋 裕太郎 さん

警察官への夢に向かって
専門知識を深める



私は、警察官になりたいという夢を持ち、大学に入学しました。授業では、警察行政や犯罪捜査など、警察官を目指す上で貴重な知識を学ぶことができ、とても魅力的です。現在、警察官になるために必要な授業を積極的に履修し、知識を深めています。また、学食や売店、トレーニングルームなどの設備も充実しており、快適な環境の中で大学生活を送ることができています。これから学びを深め、地域社会に貢献できる警察官を目指して努力していきたいです。

教員インタビュー

教授
古谷 洋一

命と暮らしを守る覚悟と
基礎を養う4年間



警察出身の実務家教員として、さまざまな事態への対処に必要な現場警察官の権限について、海外の制度も参考に研究をしています。危機管理は実践を前提とする学問分野であり、それによって守ることのできる尊い命や平和な暮らしがある一方、理念先行で現実を見誤れば、多くの人命と生活を危険にさらすことになります。それは「リベラルなアプローチ」による危機管理学の下でも変わりません。ここでの4年間は、その覚悟と基礎を養うための学修の場です。



グローバルセキュリティ領域



変動する国際情勢を注視しながら 日本と世界の平和・安定を目指して

グローバルセキュリティ領域では、国際秩序を維持する安全保障、国際法などの法制度、国際テロリズムなどの国境を越える脅威に焦点を当てます。また戦争・紛争や環境破壊、難民、人権侵害、貧困、感染症など対象範囲が広いため、世界的な視野を持って多様な危機管理に携わるための素地を養うことができます。常に日々変動する国際情勢の動向を注視しつつ、紛争や領土問題など今そこにある危機の事例などを通して、今後の日本と世界の平和・安定に向けた具体的な取り組みを考えていきます。



ゼミナール活動の総括としての4年生による卒業論文発表会
(安藤ゼミ)

主な 科目

国際政治学
国際安全保障
国家安全保障

防衛政策
平和構築論
グローバルセキュリティ特殊研究1【外交史】

グローバルセキュリティ特殊研究2【防衛法制】
グローバルセキュリティ特殊研究3【国際人権・人道法】
グローバルセキュリティ特殊研究4【国際経済ガバナンス】

授業科目を
もっと見る▶



※特殊研究の【】内は年度によって変更となる場合があります。

Message

在学生インタビュー

グローバルセキュリティ領域 4年生
守次 葵 さん

国際法の視点から 平和への貢献を考える



紛争のニュースを見て、国際社会の平和と安定のために自分に何ができるかを日々考え、グローバルセキュリティ領域を選択しました。現在は、国際法のゼミで「紛争地域における平和構築」をテーマに学びを深めています。国際法や歴史の観点から紛争を分析することで、今までニュースを見ているだけではわからなかった部分が見えてくるようになりました。卒業後はこれまでに得た知見を活かしグローバルに活躍したいです。

教員インタビュー

教授
安藤 貴世

広い視野を持ち 「地球規模の危機管理」を



私の専門分野は国際法学です。国際犯罪の法的規制に関心を有し、戦争犯罪や人道に対する犯罪、国際テロリズムなどに責任を有する者を確実に訴追・処罰する仕組みを研究しています。地球規模のさまざまな危機に溢れた現実社会の動きと連動した授業を展開していきますので、学生の皆さんには、国家間のルールである国際法を手掛かりに国際社会の諸問題を理解するとともに、そうした事態が発生した背景までを考える広い視野を培ってほしいと思います。

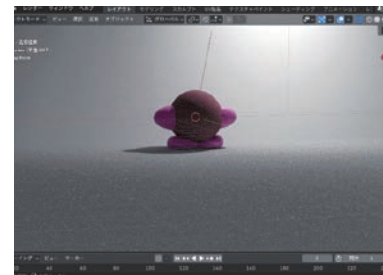


情報セキュリティ領域



進化する情報技術との共存と 情報システム活用の最適化を目指して

情報セキュリティ領域では、情報システムを巡る様々なリスクを研究の対象とします。近年の情報技術の進化は目覚ましいものがあり、20世紀中盤以降のSFの世界が現実に近いものがあります。サイバー空間と現実の世界の境界は曖昧になり、人工知能は生活レベルの向上だけでなく、戦争兵器としての利用やプライバシーの侵害、企業間格差の拡大といった問題も生み出しています。私たちは基礎となる情報技術や適用事例を学び、派生する問題を取り上げ、情報システムのあり方を研究します。



技術に対する理解に基づいた議論にするために、3Dモデリングソフトを使用することもあります。(画像は学生がBlenderで作業中の画面のスクリーンショット)

主な 科目

情報法
情報管理論
メディアコミュニケーション

情報技術
サイバーセキュリティ
情報セキュリティ特殊研究1【情報技術と社会】

情報セキュリティ特殊研究2【知財セキュリティ】
情報セキュリティ特殊研究3【デジタルリスク】
情報セキュリティ特殊研究4【GEOINT】

授業科目を
もっと見る▶



※特殊研究の【】内は年度によって変更となる場合があります。

Message

在学生インタビュー

情報セキュリティ領域 4年生
木下 航希 さん

これからの社会を生きるうえで 役に立つ学問



私は昔から、人の役に立ちたいと考えていました。そのため、大学では身近で実践的な学問を学びたいと思い、危機管理学部を選択しました。入学後、情報はこれからの社会で欠かせないものであり、適切に取り扱い、活用することが重要だと考え、情報セキュリティ領域を専攻。インターネット上で問題となる情報漏洩や著作権に関する知識を身につけることで、日常生活にも活かすことができ、家族や友人の生活にも役立っています。

教員インタビュー

専任講師
田上 雄大

情報を多角的に捉え 現実的な目で学ぶ



私の主な研究対象である表現の自由を研究するためには法的な知識が欠かせません。そのうえで表現を取り巻くさまざまな要素にも目を向けることが大事です。たとえば私のゼミでは、法的なものに限定せず、技術的な知識や創作活動の実践、言葉そのものの仕組みなどにも触れ、表現に対する幅広い視野を養っていきます。また世間で正しいとされている考え方や情報にとらわれずに、感情論やきれいごとを排して分析することを通して、学生には情報社会の現代に合致した学問のあり方を体現する人物になってもらいたいと思っています。



基盤科目

危機管理を
社会科学アプローチで読み解く



詳細はこちら

主な科目

レジリエンス／リーガルシステム／リスクマネジメント／市民法システムⅠ・Ⅱ／政治システム／
行政法システム／国家ガバナンスⅠ・Ⅱ／企業法システム／国際法システム 他

Message

在学生インタビュー

災害マネジメント領域 4年生

大淵 愛奈 さん

法律と防災マネジメントの
学びで人々の未来を守る



私は東日本大震災をきっかけに防災や関連する法律に関心を持ちました。授業では、関心がある災害対応のみならず、サイバーセキュリティやリスクコミュニケーションなど幅広い領域に触れることができます。現在は法学を中心に学んでいます。災害現場での実務に直結する知識を得るとともに、法制度の背景にある価値観や倫理に関しても、深く考えるようになりました。今後は法律や政策について得た知識を活かし、防災や危機管理の分野で社会に貢献したいです。

教員インタビュー

教授

杉山 幸一

立憲主義の視点から見る
緊急事態と基本的人権の調和



私の専門は憲法学です。緊急事態対応において基本的人権を制限する場合、その制限が緊急事態にとって必要であり、かつ時限的であることが重要です。さらに、この対応が憲法で保障された基本的人権を奪うことにならないかを研究しています。緊急事態における基本的人権の保障と公共の福祉の調和を探索し、その法的対応について学びます。法の支配や立憲主義の理念を踏まえて、社会の安全と秩序を守るための制度設計や政策立案に貢献できる人材を育成します。



リベラルアーツ科目

危機管理パーソンを支える
充実した基礎教養科目

主な科目

ライティング・スキルズ／リサーチ・スキルズ1～2／データサイエンスの世界／人文科学探究1～9(哲学・思想分野)(文学・言語分野)等／社会科学探究1～9(社会・空間分野)(法律・政治分野)等／自然科学探究1～9(生命・地球分野)(環境・共生分野)等／学際探究1～6／英語／韓国語／中国語 他



詳細はこちら

Message

在学生インタビュー

災害マネジメント領域 4年生

鈴木 優 さん

危機管理学の幅広い視点で
実践力を身につける



東日本大震災の被災地を実際に見た経験から、危機管理学部の学びについて興味を持ちました。学びの基礎となる法律や、心理学の考え方など幅広い視点を持つことで、危機管理学の総合的な理解を深めることができます。英語科目の延長で、オーストラリアでの海外実地研修に参加した際には、緊張せずに異文化の違いを楽しむことができました。卒業後はここで学んだ知識を活かせる仕事に就きたいです。

PICK UP 講義

危機管理特殊講義(GEOINT)

日本では珍しい
衛星画像の分析実習

現在、自然災害や環境問題、安全保障の分野で、衛星写真を分析したジョイント(GEOINT:地理空間情報)が広く活用されています。本講義では、外部の専門家を講師として招き、衛星のリモートセンシングの仕組みや、衛星写真の解析についての授業を受けます。その後、学生自ら関心のある分野の衛星写真を使って分析を行い、その成果を発表する内容となっています。本講義は昨年度から、学部課程に導入されて人気を集めており、令和7年度は学部と大学院で実施しています。

POINT
1

ジョイント解析を
プロから学べる

POINT
3

自分の関心に基づいて
衛星写真を
分析・発表

POINT
2

世界中の
衛星写真データに
アクセスできる



留学・国際交流プログラム・学生支援

留学・国際交流

日本大学のスケールメリットを活かした 留学プログラム

留学は異文化を理解し、多様な価値観を受け入れ、高いコミュニケーション能力を身につける絶好の機会です。本学には、中長期間の留学プログラムのほか、夏季・春季休業中に開催する短期海外研修プログラムなど多種多様な留学の機会があります。

交換留学・派遣留学(約1年間)

日本大学では、大学間協定に基づき海外の大学との交換留学・派遣留学を実施しています。



詳細はこちら

留学先

英語圏、韓国、中国語圏、ドイツ、フランス

短期海外研修(約3週間)

日本大学では、イギリスおよびオーストラリアで短期海外研修を実施しています。



詳細はこちら

研修先

ケンブリッジ大学(イギリス)、
ニューカッスル大学(オーストラリア・協定校)

三軒茶屋キャンパスの施設

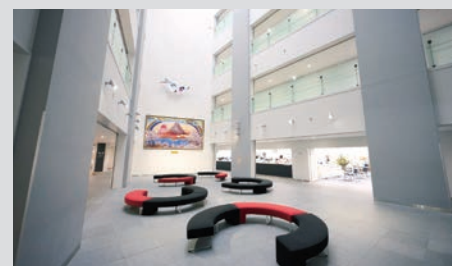
様々な防災機能を備えた三軒茶屋キャンパスはスポーツ科学部と共用です。1号館は地下2階、地上8階建てで、教室、学生食堂、体育施設等を有します。2号館は5フロアにわたって図書館施設を有します。充実の設備で快適な学生生活を送ることができます。



詳細はこちら



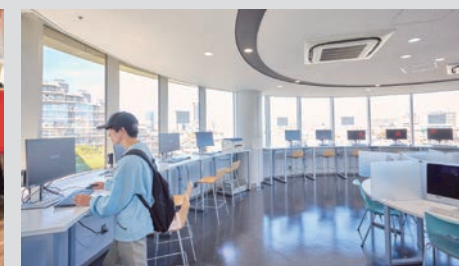
2号館(図書館)



1号館1階エントランス付近



1号館1階学生食堂内



1号館メディアコーナー(4フロアに設置)

学生生活サポート

修学支援制度・奨学金

日本大学は、「高等教育の修学支援新制度」の対象校に認定されており、その対象となった受験生は入学後に授業料が減免されます。また、奨学金も家計困窮者の支援を目的とした日本大学創立130周年記念奨学金(第2種)(30万円給付)など、学内外を含め充実しています。



詳細はこちら

保健室・学生支援室

保健室には看護師が常駐し、ケガの応急処置や健康相談、大学近隣の医療機関の案内や、日本大学病院への紹介状作成などを行っています。学生支援室では、教職員・保健室と連携し、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、修学や学生生活に不安を抱えている学生に対して、カウンセリング及び支援をしています。

学生寮・提携学生寮

日本大学では、複数の大学直営寮(男子寮・女子寮)を完備し、経済面・安全面の両面から、一人暮らしをする学生を支援しています。入寮時の初期費用が小さく、基本的な家具・家電などの生活必需品が揃い、インターネット接続も無料です。提携学生寮では、寮長・寮母が常駐し、朝・夕の食事が付きます。全室個室で家具類は備え付け、共用設備も充実しており、快適な学生生活が送れます。



詳細はこちら

ダイバーシティ

三軒茶屋キャンパスでは、多様性に配慮するダイバーシティ推進委員会を立ち上げています。

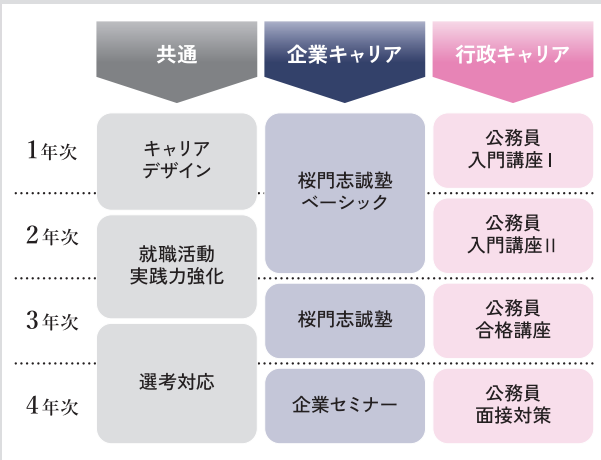
◆ キャリアサポート

キャリア支援プログラム



詳細はこちら

行政キャリア、企業キャリアそれぞれの志望に応じたプログラムが構成されています。共通領域のプログラムのキャリアデザインの局面では、自己分析と業界・企業研究を行い、就職活動の実践力強化の局面ではエントリーシート作成指導、面接対策、適性試験対策、キャリアカウンセラー相談のプログラムが提供されます。これらの講座は、多様化する選考採用のあり方や学生の就職活動を始める時期の違いを考慮して設けられています。共通領域のプログラムでは全ての就活生に求められる技能を養成し、行政・企業キャリア向けプログラムでは、志望先に応じた深掘りを行います。



インターンシップ

「キャリア・デザインI・II」という正課科目を配置しています。これらの科目では、危機管理と関連のある企業や自治体についての業界研究・企業研究とインターンシップを通じて、危機管理に関わる仕事について知り、理解を深めていくことができます。

公務員講座

公務員を志望する学生に向けて、1年次から学べる公務員対策講座を独自に開講しています。公務員試験相談コーナーが開設され、公務員試験に関するあらゆる質問を専任の相談員や教員に相談したり、面接の指導を受けることができます。

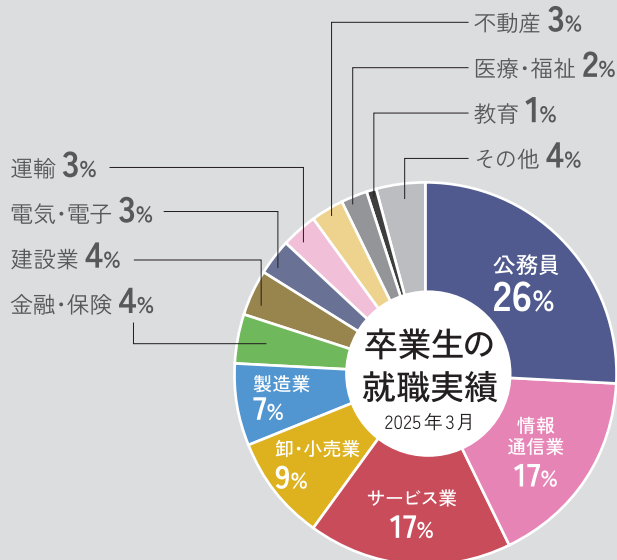
桜門志誠塾

就職難関企業突破を目指す3年生向けに就活特訓塾「桜門志誠塾」を開講しています。就職活動に求められる実践的な社会人基礎力の強化を目指した課外授業の形式で20回以上のプログラム枠で構成されています。

キャリアカウンセリング

就職・インターンシップ・公務員等の進路を検討する際にプロのカウンセラーに相談することで、多くの選択肢の中から最良の選択を導くための手助けをしてくれます。履歴書やエントリーシートの添削、面接の指導などあらゆるサポートを受けることができます。

進路実績



大学院情報

大学院危機管理学研究科 博士前期課程／博士後期課程

大学院危機管理学研究科が開設され、社会人経験者、留学生を含む多様なバックグラウンド、研究テーマを持った学生が、日々研究に動いています。本研究科は、災害、テロ、国際紛争など、複雑化した現代の様々な危機に、法学を中核とし、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した危機管理学の学識を適用して的確に対処し、翻ってレジリエント

な社会の創造に貢献する高度専門職業人と指導的人材を養成します。具体的進路としては、博士後期課程を経ての大学教員、研究所研究員のほか、中央官庁、地方自治体の危機管理部門専門的職員、BCPなど危機管理の諸分野についての高いニーズを有する民間企業の総合職職員等を想定しています。



詳細はこちら

Message

さまざまなシーンで活躍する卒業生



Interview
01

株式会社 電通名鉄コミュニケーションズ
令和元年度卒 稲熊 亮さん

マネジメント視点で広告を考える

名古屋の広告会社で、駅や電車内を中心とした交通広告媒体の販売と新たな広告媒体の開発を担当しています。危機管理学の本質は、限られた資源や情報のなかでいかに有事に備え、対応するかを考える“マネジメント”の学問なのではないでしょうか。直接「危機」と対峙する業界ではありませんが、学部で得た危機管理の視点は、事業運営を考えるなかで活きていると感じます。



Interview
02

東京都庁
令和2年度卒 吉澤 遥菜さん

強く、安心安全な東京都をつくる

私は東京都庁に事務職として採用され、防災部署で3年勤めたのち、現在は広報部署で知事会見の中継などを担当しています。「危機管理」や「防災」は、国・都道府県・区市町村から切り離せない重要な分野です。東京都には、ハードとソフト両方で多岐にわたる事業があるため、防災部署から異動した今もなお、大学で学んだ知識を使う場面が多々あります。勉強してきた知識を活かせることが仕事に対するやりがいにもつながります。



Interview
03

テルモ株式会社
令和4年度卒 坂元 力也さん

医療を通じて社会に貢献

医療機器や医薬品を製造・販売するメーカーに勤務しています。現在はMRという職種で医療従事者へ心臓や足の動脈硬化病変領域の情報提供活動や自社製品の適正使用促進などの営業の仕事を行っています。機械の使用手法や日々の情報提供で、患者さんの命にかかわる仕事に責任感を持ちながら日々の仕事に取り組んでいます。



Interview
04

横浜市消防局
令和4年度卒 本多 直央さん

災害に強い安全・安心な都市の実現

横浜市消防局で消防隊員として勤務しています。災害対応や救急活動、防火査察、そして、防災指導等を通じ、安全・安心を実感できる都市の実現に向け、日々奮闘中です。今後も、危機管理学部で得たリーガルマインドや専門知識を活かしながら、消防行政を取り巻く諸課題に対して、果敢に向き合っていきます。

入試情報

令和8年度

詳細はこちら

総合型選抜

総合型選抜【探究型】

こんな人にオススメです 探究型の授業を受講して成果を出した方

募集人員	出願期間	試験日	選考方法
15名	令和7年 9月1日(月)～ 9月11日(木)	第一次選考 令和7年 9月30日(火)	第一次選考 (書類審査) ①志望理由書(学部指定用紙) ②出身高等学校等調査書 ③探究型授業受講報告書(学部指定用紙)及び成果物
		第二次選考 令和7年10月25日(土) (※令和7年10月26日(日))	第二次選考 ①総合問題試験(読解と論述を含む) ②口頭試問及び面接 (探究型授業受講報告書及び成果物についてのプレゼンテーションを含む)

※志願者数によって10月26日(日)に実施する場合がある。

- 出願資格(いずれかに該当する者)

①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者。
②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達しているもの。
- 出願要件(すべてに該当する者)

①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
②高等学校又は中等教育学校等において実施される探究型授業を受講し、当該授業に関する探究型授業受講報告書及びその成果物を提出できる者。

総合型選抜【資格型】

こんな人にオススメです 資格取得を中心に頑張った方

募集人員	出願期間	試験日	選考方法
5名	令和7年 9月1日(月)～ 9月11日(木)	第一次選考 令和7年 9月30日(火)	第一次選考 (書類審査) ①志望理由書(学部指定用紙) ②出身高等学校等調査書 ③出願要件②を満たすことを証明する文書 (スコアシート、成績表または合格証書等)のコピー
		第二次選考 令和7年10月25日(土) (※令和7年10月26日(日))	第二次選考 ①総合問題試験(読解と論述を含む) ②口頭試問及び面接(資格取得についてのプレゼンテーションを含む)

※志願者数によって10月26日(日)に実施する場合がある。

- 出願資格(いずれかに該当する者)

①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者。
②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達しているもの。
- 出願要件(すべてに該当する者)

①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
②以下のいずれかの要件を満たす者。ただし、各試験については出願期間初日から遡って2年以内に実施されたことを条件とする。
 - 実用英語技能検定準2級以上に合格していること
 - TOEIC® Bridge L&R Score 60点以上であること
 - TEAP(4 技能) 135点以上であること
 - 情報処理推進機構 ITパスポート試験に合格していること
 - 情報処理推進機構 情報セキュリティマネジメント試験に合格していること
 - 情報処理推進機構 基本情報技術者試験に合格していること
 - 日本防災士機構 防災士資格取得試験に合格していること
 - TOEIC® L&R Score 380点以上であること
 - TEAP CBT 235点以上であること
 - GTEC 662点以上であること

総合型選抜【キャリア型】

こんな人にオススメです 入学後のキャリア計画を設計できる方

	募集人員	出願期間	試験日	選考方法
専願型	25名	令和7年 9月1日(月)～ 9月11日(木)	第一次選考 令和7年 9月30日(火)	第一次選考 (書類審査) ①出身高等学校等調査書 ②キャリア計画書(学部指定用紙)
			第二次選考 令和7年10月25日(土) (※令和7年10月26日(日))	第二次選考 ①総合問題試験(読解と論述を含む) ②口頭試問及び面接 (キャリア計画書についてのプレゼンテーションを含む)

※志願者数によって10月26日(日)に実施する場合がある。

- 出願資格(いずれかに該当する者)

①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者。
②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達しているもの。
- 出願要件(すべてに該当する者)

①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
②将来、危機管理に関連するキャリアを目指しており、キャリア実現に向けたキャリア計画書を提出できる者。

	募集人員	出願期間	試験日	選考方法
併願型	5名	令和7年 9月1日(月)～ 9月11日(木)	第一次選考 令和7年 9月30日(火)	第一次選考 (書類審査) ①出身高等学校等調査書 ②キャリア計画書(学部指定用紙)
			第二次選考 令和7年10月25日(土) (※令和7年10月26日(日))	第二次選考 ①総合問題試験(読解と論述を含む) ②口頭試問及び面接 (キャリア計画書についてのプレゼンテーションを含む)

※志願者数によって10月26日(日)に実施する場合がある。

- 出願資格(いずれかに該当する者)

①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者。
②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達しているもの。
- 出願要件(すべてに該当する者)

①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、合格した場合、本学部に入学することを強く希望する者。
②将来、危機管理に関連するキャリアを目指しており、キャリア実現に向けたキャリア計画書を提出できる者。

一般選抜

方式	募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
A 個別 方式	85名	令和8年 2月4日(水)	3教科 3科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」	100
				地理歴史 公民 数学	「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		

方式	募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
N全学統一方式(第1期)	15名	令和8年 2月1日(日)	2教科 2科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語 地理歴史 公民 数学①	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」 「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の選択科目を指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		

方式	募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
N全学統一方式(第2期)	10名	令和8年 3月4日(水)	2教科 2科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語 地理歴史 公民 数学①	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」 「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の選択科目を指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、外国語の得点を1.5倍にして、他の科目と合わせて合否判定する。		

入試状況一覧

令和7年度

総合型選抜

学科		募集人員	志願者数	受験者数(A)	合格者数(B)	競争率(A/B)	競争率(令和6年度)
危機管理学科	探究型	15	12	12	10	1.2倍	1.4倍
	資格型	5	6	6	6	1.0倍	
	キャリア型	20	61	61	56	1.1倍	

※探究型・資格型・キャリア型の区分は令和7年度から実施

一般選抜

方式	募集人員	志願者数	受験者数(A)	合格者数(B)	競争率(A/B)	競争率(令和6年度)	総点	合格者最低点 ^{※1}	
								令和7年度	令和6年度
A個別方式	85	547	529	227	2.3倍	2.0倍	300	154.3	150.0
N全学統一方式(第1期)	15	604	566	143	4.0倍	2.5倍	200	114.1	107.6
N全学統一方式(第2期)	10	250	224	62	3.6倍	3.0倍	250	140.3	134.7
A+N1+N2 計	110	1,401	1,319	432					

※小数点第2位以下切り捨て

納入金^{※1}

種別	項目	初年度納入金		
		入学手続時	後学期(9月)	計
学費	入学金(初年度のみ)	260,000円	—	260,000円
	授業料	430,000円	430,000円	860,000円
	施設設備資金	100,000円	100,000円	200,000円
その他	日本大学三軒茶屋キャンパス後援会費	15,000円	15,000円	30,000円
	日本大学校友会準会員(在学生)年会費 ^{※2}	10,000円	—	10,000円
計		815,000円	545,000円	1,360,000円

※1 納入金は変更になる場合があります。必ず入試要項(募集要項)をご確認ください。 ※2 卒業年度後学期に正会員会費初年度分を10,000円納入。

危機管理学部 入試情報

<https://www.crm.nihon-u.ac.jp/admissions/>

日本大学 入試情報

https://www.nihon-u.ac.jp/admission_info/application/